

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成23年の素材の需要量は2,457万 $m^3$ で、前年に比べて84万6千 $m^3$ （3.6%）増加した。これを需要部門別にみると、製材用は1,642万6千 $m^3$ 、合板用は385万8千 $m^3$ で、木材チップ用は428万6千 $m^3$ で、住宅需要がやや回復したことなどから、前年に比べてそれぞれ66万4千 $m^3$ （4.2%）、4万7千 $m^3$ （1.2%）、13万5千 $m^3$ （3.3%）増加した。

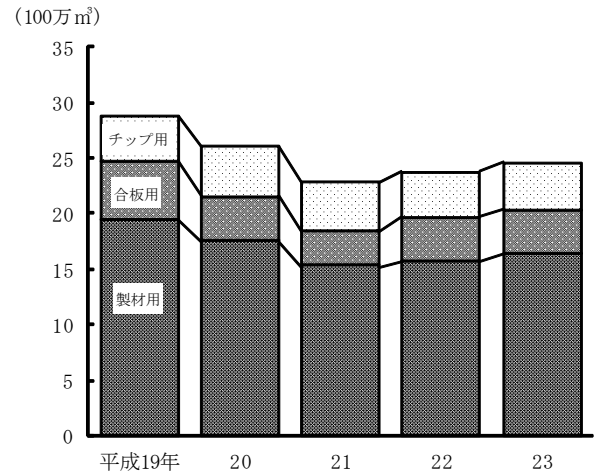
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が66.9%、合板用が15.7%、木材チップ用が17.4%となった。（表1、図1）

表1 需要部門別素材需要量

単位：千 $m^3$

年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成23年	24,570	16,426	3,858	4,286
対前年比（%）	103.6	104.2	101.2	103.3
構成比（%）	100.0	66.9	15.7	17.4

図1 素材需要量の推移



(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	2) 製紙パルプ生産量
	千戸	千戸	千t	千t
平成23年	834	465	26,609	9,004
対前年比（%）	102.6	101.1	97.2	95.9

資料：1)国土交通省『建築着工統計』  
2)経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

## (2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材が1,829万 $m^3$ で、前年に比べて109万7千 $m^3$ （6.4%）増加した。

また、外材は628万 $m^3$ で、米材及びその他が増加したものの、北洋材、ニュージーランド材及び南洋材が減少したことから、前年に比べて25万1千 $m^3$ （3.8%）減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は74.4%となり、前年を1.9ポイント上回った。（表2及び3、図2）

図2 材種別素材供給量の推移

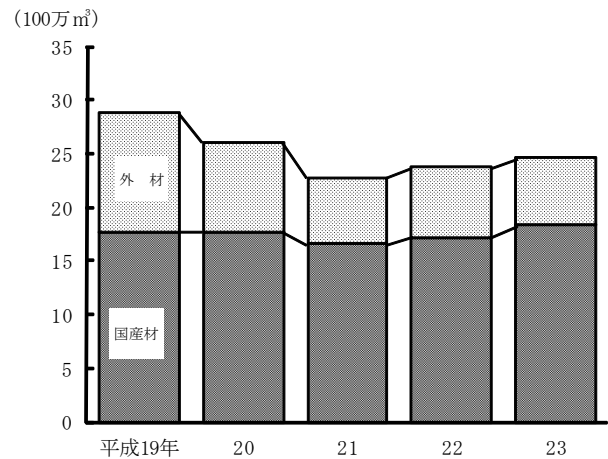


表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千 $m^3$

年次	計	国産材	外材
平成23年	24,570	18,290	6,280
対前年比（%）	103.6	106.4	96.2
構成比（%）	100.0	74.4	25.6

表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューズーランド材	その他
平成23年計	24,570	18,290	15,986	2,304	6,280	461	352	4,253	599	790	177
製材用	16,426	11,492	11,363	129	4,934	112	13	3,374	499	783	166
合板用	3,858	2,524	2,514	10	1,334	347	337	877	92	x	x
木材チップ用	4,286	4,274	2,109	2,165	12	2	2	2	8	x	x
対前年比(%)計	103.6	106.4	108.1	95.8	96.2	87.6	100.9	106.0	61.2	92.1	113.5
製材用	104.2	108.6	108.7	100.8	95.3	110.9	185.7	94.2	91.6	96.2	119.4
合板用	101.2	101.4	101.5	71.4	101.0	81.8	98.8	212.9	21.3	x	x
木材チップ用	103.3	103.7	113.4	95.7	40.0	200.0	200.0	10.0	400.0	x	x
構成比(%)計	100.0	74.4	65.1	9.4	25.6	1.9	1.4	17.3	2.4	3.2	0.7
製材用	100.0	70.0	69.2	0.8	30.0	0.7	0.1	20.5	3.0	4.8	1.0
合板用	100.0	65.4	65.2	0.3	34.6	9.0	8.7	22.7	2.4	x	x
木材チップ用	100.0	99.7	49.2	50.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	x	x

注：構成比(%)は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある(以下の表において同じ)。

ア 国産材の供給

国産材の供給量(全国計のみ素材生産量と等しい。)を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,598万6千m<sup>3</sup>で、全ての部門別の生産量が増加したことから、前年に比べて119万7千m<sup>3</sup>(8.1%)増加した。これを樹種別にみると、あかまつ・くろまつは前年に比べて11万4千m<sup>3</sup>(16.4%)減少したものの、すぎ、からまつ、ひのき及びえぞまつ・とどまつは、前年に比べてそれぞれ60万m<sup>3</sup>(6.6%)、43万5千m<sup>3</sup>(21.9%)、14万m<sup>3</sup>(6.9%)、12万2千m<sup>3</sup>(14.7%)増加した。

また、広葉樹は230万4千m<sup>3</sup>で、主に木材チップ用の生産量が減少したことから、前年に比べて10万m<sup>3</sup>(4.2%)減少した。(表3及び4、図3)

図3 樹種別素材生産量の推移

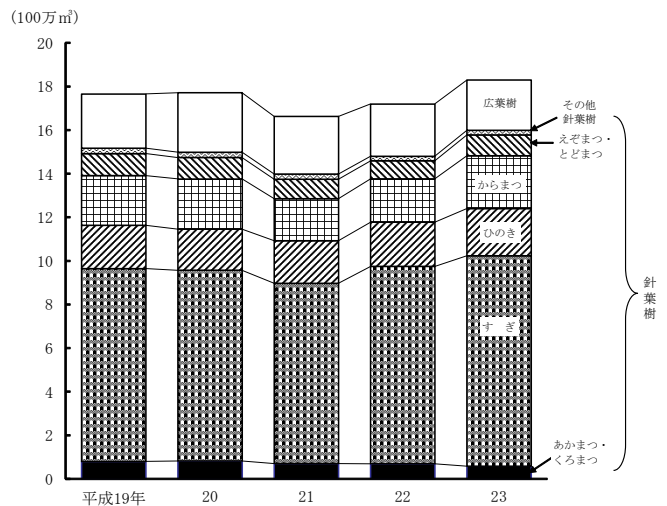


表4 需要部門別、樹種別素材生産量

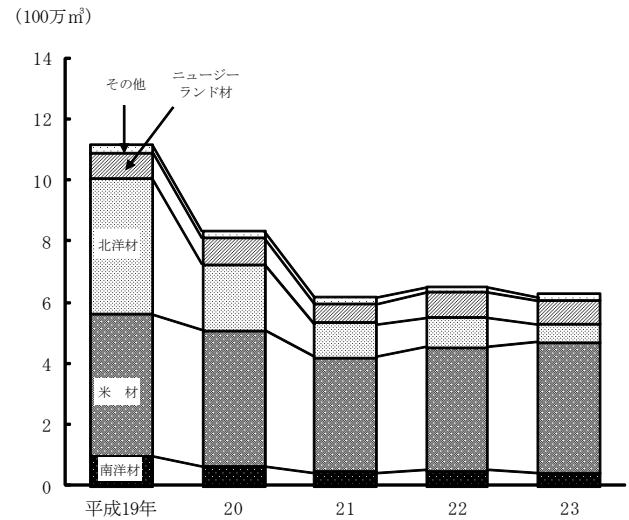
単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成23年計	18,290	15,986	580	9,649	2,169	2,420	953	215	2,304
製材用	11,492	11,363	187	7,089	1,867	1,356	805	59	129
合板用	2,524	2,514	83	1,550	75	727	59	20	10
木材チップ用	4,274	2,109	310	1,010	227	337	89	136	2,165
対前年比(%)計	106.4	108.1	83.6	106.6	106.9	121.9	114.7	107.0	95.8
製材用	108.6	108.7	93.0	105.9	104.7	132.4	115.8	107.3	100.8
合板用	101.4	101.5	77.6	100.8	66.4	112.0	107.3	142.9	71.4
木材チップ用	103.7	113.4	80.3	123.8	172.0	108.0	109.9	103.0	95.7
構成比(%)計	100.0	87.4	3.2	52.8	11.9	13.2	5.2	1.2	12.6
製材用	100.0	98.9	1.6	61.7	16.2	11.8	7.0	0.5	1.1
合板用	100.0	99.6	3.3	61.4	3.0	28.8	2.3	0.8	0.4
木材チップ用	100.0	49.3	7.3	23.6	5.3	7.9	2.1	3.2	50.7

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、米材は425万3千m<sup>3</sup>で、前年に比べ24万m<sup>3</sup>（6.0%）増加したものの、北洋材は59万9千m<sup>3</sup>、ニュージーランド材は79万m<sup>3</sup>、南洋材は46万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べてそれぞれ37万9千m<sup>3</sup>（38.8%）、6万8千m<sup>3</sup>（7.9%）、6万5千m<sup>3</sup>（12.4%）減少した。（表3、図4）

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成23年12月31日現在の製材工場数は6,242工場で、前年に比べて327工場（5.0%）減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「37.5~75.0kW未満」、「75.0~150.0kW未満」及び「22.5~37.5kW未満」の階層において、前年に比べてそれぞれ150工場（6.9%）、72工場（6.0%）、47工場（3.5%）減少した。

製材用動力の総出力数は69万2,565.6kWで、前年に比べて1万1,815kW（1.7%）減少したものの、1工場当たりの出力数は111.0kWで、前年に比べて3.8kW（3.5%）増加した。（表5）

表5 製材工場数、製材用動力の出力数（平成23年12月31日現在）

出力階層	単位	平成23年	対前年比	構成比
工場数計	工場	6,242	95.0	100.0
7.5~22.5kW未満	〃	757	96.6	12.1
22.5~37.5	〃	1,286	96.5	20.6
37.5~75.0	〃	2,015	93.1	32.3
75.0~150.0	〃	1,124	94.0	18.0
150.0~300.0	〃	619	96.6	9.9
300.0kW以上	〃	441	98.0	7.1
総出力数	kW	692,565.6	98.3	-
1工場当たり出力数	〃	111.0	103.5	-

イ 従業員数

平成23年12月31日現在で操業している工場の従業者数は3万2,482人で、前年に比べて997人（3.0%）減少し、1工場当たりの従業者数は5.2人で、前年に比べて0.1人（2.0%）増加した。（表6）

表6 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	従業者数規模別製材工場数（12月操業）							従業者数 (12月31日現在)	1工場当たり 従業者数
	計	4人以下	5~9	10~19	20~29	30~49	50人以上		
平成23年	6,203	4,181	1,277	535	114	64	32	32,482	5.2
対前年比(%)	95.2	96.2	91.3	96.4	85.1	118.5	94.1	97.0	102.0
構成比(%)	100.0	67.4	20.6	8.6	1.8	1.0	0.5	-	-

ウ 製材用素材消費量

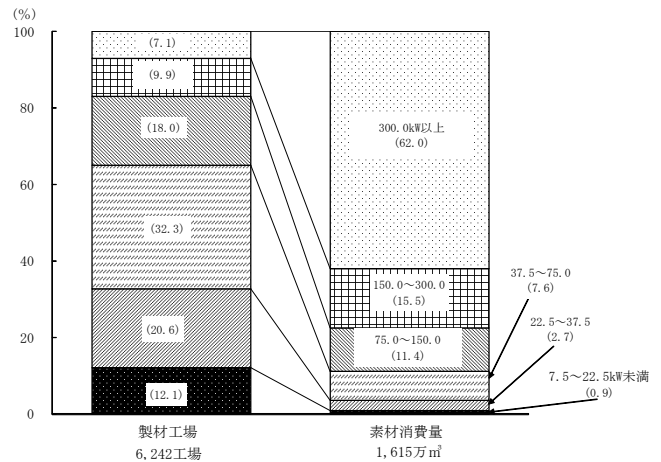
平成23年の製材用素材消費量は1,615万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べて45万5千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（2.9%）増加した。これを製材用動力の出力階層別にみると、主に、「37.5～75.0kW未満」及び「75.0～150.0kW未満」の階層において、それぞれ10万2千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（7.7%）、4万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（2.1%）減少したものの、「300.0kW以上」の階層において56万3千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（6.0%）増加した。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,587<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べて198<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（8.3%）増加した。（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成23年	対前年比	構成比
計	千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	16,150	102.9	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	148	108.8	0.9
22.5～37.5	〃	433	107.2	2.7
37.5～75.0	〃	1,220	92.3	7.6
75.0～150.0	〃	1,835	97.9	11.4
150.0～300.0	〃	2,502	99.7	15.5
300.0kW以上	〃	10,012	106.0	62.0
1工場当たり消費量	千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	2,587	108.3	-

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成23年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成23年の製材用素材入荷量は1,642万6千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べて66万4千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（4.2%）増加した。これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,149万2千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べて91万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（8.6%）増加し、外材の入荷量は493万4千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>で、前年に比べて24万6千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（4.7%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は70.0%で、前年（67.1%）を2.9ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

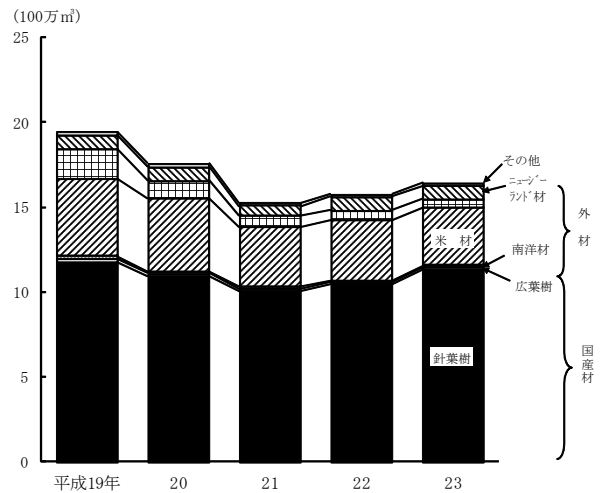


表8 材種別製材用素材の入荷量

単位：千<sup>3</sup>m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージニアラント材	その他
平成23年	16,426	11,492	11,363	129	4,934	112	13	3,374	499	783	166
対前年比 (%)	104.2	108.6	108.7	100.8	95.3	110.9	185.7	94.2	91.6	96.2	119.4
構成比 (%)	100.0	70.0	69.2	0.8	30.0	0.7	0.1	20.5	3.0	4.8	1.0

(イ) 素材の入荷があった製材工場は6,175工場で、前年に比べて311工場（4.8%）減少した。これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,372工場、国産材と外材は1,406工場、外材のみは397工場で、前年に比べてそれぞれ70工場（1.6%）、212工場（13.1%）、29工場（6.8%）減少した。

入荷量でみると、外材のみは299万6千 $m^3$ で、前年に比べて110万8千 $m^3$ （27.0%）減少したものの、国産材のみは1,032万6千 $m^3$ 、国産材と外材は310万4千 $m^3$ で、前年に比べてそれぞれ98万2千 $m^3$ （10.5%）、79万 $m^3$ （34.1%）増加した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約6割を占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成23年								
計	6,175	16,426	4,372	10,326	1,406	3,104	397	2,996
7.5～22.5kW未満	744	149	625	124	93	20	26	5
22.5～37.5	1,271	428	992	315	234	91	45	22
37.5～75.0	1,987	1,219	1,344	841	530	310	113	68
75.0～150.0	1,116	1,833	727	1,237	302	425	87	171
150.0～300.0	616	2,560	378	1,777	168	531	70	252
300.0kW以上	441	10,237	306	6,032	79	1,727	56	2,478
対前年比（%）								
計	95.2	104.2	98.4	110.5	86.9	134.1	93.2	73.0
7.5～22.5kW未満	96.6	116.4	99.8	115.9	81.6	142.9	86.7	71.4
22.5～37.5	94.9	106.5	95.5	101.0	89.7	115.2	112.5	200.0
37.5～75.0	94.0	91.7	98.8	91.6	83.9	96.0	94.2	77.3
75.0～150.0	94.3	97.1	100.3	106.1	83.2	83.2	90.6	81.4
150.0～300.0	97.0	102.3	95.9	108.6	100.6	92.8	94.6	85.7
300.0kW以上	99.3	107.6	103.0	115.9	97.5	211.9	84.8	70.9

注：工場数は、平成23年に製材用素材の入荷があった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は943万4千 $m^3$ で、前年に比べて1万9千 $m^3$ （0.2%）増加した。

出荷量を用途別にみると、建築用材のうちひき角類及びひき割類の用途において、前年に比べてそれぞれ14万3千 $m^3$ （4.4%）、13万 $m^3$ （4.6%）減少したものの、木箱仕組板・こん包用材、土木建設用材及び家具・建具用材の用途において、前年に比べてそれぞれ13万7千 $m^3$ （12.6%）、5万6千 $m^3$ （14.7%）、1万1千 $m^3$ （15.9%）増加した。

また、人工乾燥材出荷量は263万2千 $m^3$ で、前年に比べて8万8千 $m^3$ （3.5%）増加し、出荷量計における人工乾燥材出荷量の割合は27.9%で前年（27.0%）を0.9ポイント上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

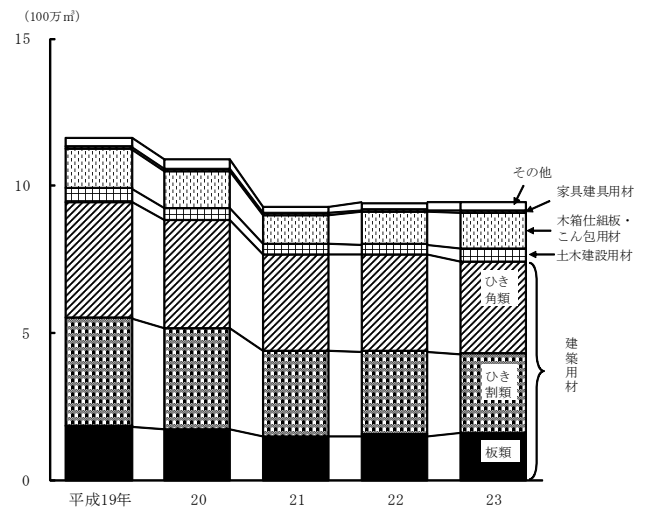


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成23年	9,434	2,632	7,434	1,616	2,687	3,131	436	1,224	80	260
対前年比（%）	100.2	103.5	97.3	104.2	95.4	95.6	114.7	112.6	115.9	109.7
構成比（%）	100.0	27.9	78.8	17.1	28.5	33.2	4.6	13.0	0.8	2.8

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成23年12月31日現在の合単板工場数は203工場で、前年に比べて11工場（5.7%）増加した。これを製造種類別にみると、普通合板のみ製造している工場において、前年に比べて2工場（5.4%）減少したものの、特殊合板のみ製造している工場は前年に比べて13工場（9.4%）増加した。

合単板工場の従業者数は7,241人で、前年に比べて783人（9.8%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は35.7人で、前年に比べて6.1人（14.6%）減少した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成23年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人	
計	203	105.7	93	70	17	17	4	2	7,241	90.2	35.7
単板のみ	13	100.0	7	5	-	1	-	-	340	71.7	26.2
普通合板のみ	35	94.6	2	8	11	11	2	1 <sup>1)</sup>	3,818	1) 92.9	1) 100.5
普通合板と特殊合板	3	100.0	-	-	1	2	-	-	...	...	...
特殊合板のみ	152	109.4	84	57	5	3	2	1	3,083	89.6	20.3

注：1) は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成23年の単板製造用素材の入荷量は385万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べて4万7千m<sup>3</sup>（1.2%）増加した。これを国産材、外材別にみると、国産材は252万4千m<sup>3</sup>、外材は133万4千m<sup>3</sup>で、前年に比べてそれぞれ3万4千m<sup>3</sup>（1.4%）、1万3千m<sup>3</sup>（1.0%）増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は65.4%で、前年（65.3%）を0.1ポイント上回った。

（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

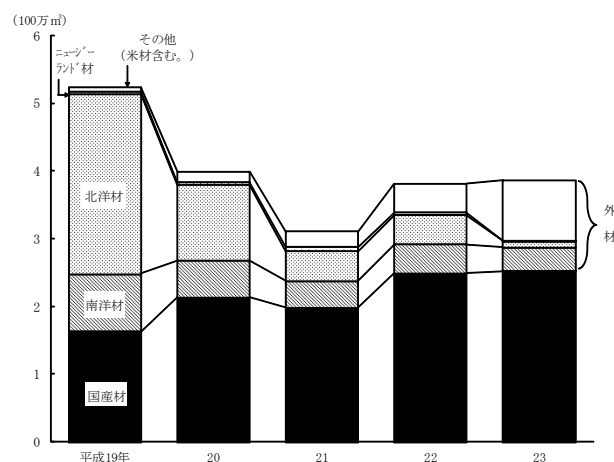


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成23年	3,858	2,524	2,514	10	1,334	665	347	337	877	92	x	x
対前年比(%)	101.2	101.4	101.5	71.4	101.0	81.4	81.8	98.8	212.9	21.3	x	x
構成比(%)	100.0	65.4	65.2	0.3	34.6	17.2	9.0	8.7	22.7	2.4	x	x

単位：千m<sup>3</sup>

ウ 普通合板生産量

平成23年の普通合板生産量は248万6千 $m^3$ で、前年に比べて15万9千 $m^3$ （6.0%）減少した。

厚さ別にみると、「12mm以上」及び「6～12mm未満」の階層で、前年に比べてそれぞれ13万4千 $m^3$ （6.0%）、3万6千 $m^3$ （11.1%）減少したものの、「3～6mm未満」及び「3mm未満」の階層で、前年に比べてそれぞれ1万 $m^3$ （12.5%）、1千 $m^3$ （4.0%）増加した。

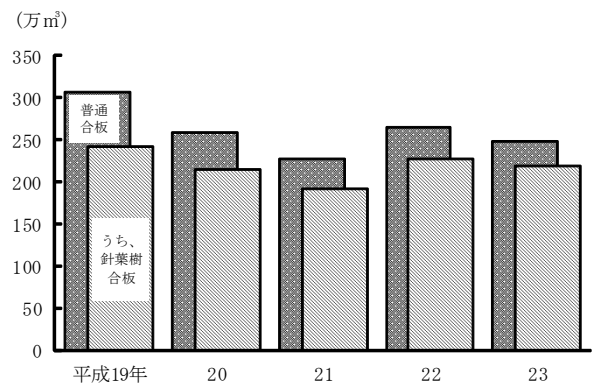
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は219万8千 $m^3$ で、前年に比べて8万3千 $m^3$ （3.6%）減少した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は88.4%で、前年（86.2%）を2.2ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	平成23年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	2,486	94.0	100.0
3mm未満	26	104.0	1.0
3～6mm	90	112.5	3.6
6～12mm	288	88.9	11.6
12mm以上	2,082	94.0	83.7
うち針葉樹合板	2,198	96.4	88.4

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

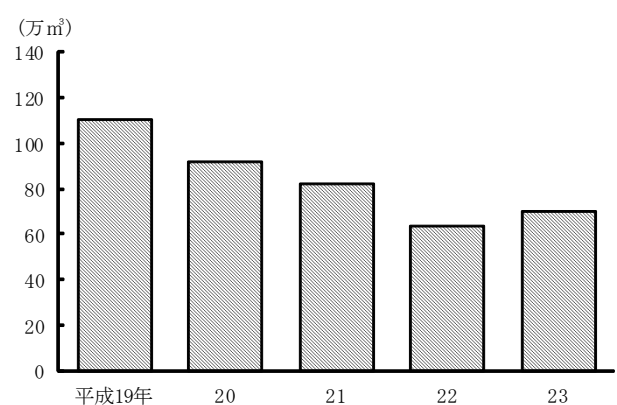
平成23年の特殊合板生産量は70万3千 $m^3$ で、前年に比べて5万6千 $m^3$ （8.7%）増加した。

これを種類別にみると、天然木化粧合板において、前年に比べて2千 $m^3$ （6.5%）減少したものの、プリント合板、その他の合板及びオーバーレイ合板において、前年に比べてそれぞれ3万2千 $m^3$ （54.2%）、2万5千 $m^3$ （4.7%）、1千 $m^3$ （5.0%）増加した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	平成23年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
特殊合板生産量	703	108.7	100.0
オーバーレイ合板	21	105.0	3.0
プリント合板	91	154.2	12.9
塗装合板	9	100.0	1.3
天然木化粧合板	29	93.5	4.1
その他の合板	553	104.7	78.7
うち木質複合床板	388	106.0	55.2

図10 特殊合板生産量の推移



### (3) 木材チップ製造業

#### ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成23年12月31日現在の木材チップ工場数は1,545工場で、前年に比べて32工場（2.0%）減少した。これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は380工場で、前年に比べて28工場（8.0%）増加したものの、「製材又は合単板工場との兼営工場」は1,165工場で、前年に比べて60工場（4.9%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は2,837人で、前年に比べて14人（0.5%）減少した。

また、1工場当たりの従業者数は1.8人で、前年と同数になった。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数  
（平成23年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人	
計	1,545	98.0	1,359	144	30	12	2,837	99.5	1.8
木材チップ専門工場	380	108.0	221	120	28	11	...	...	...
製材又は合単板工場との兼営工場	1,165	95.1	1,138	24	2	1	...	...	...

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成23年の木材チップ用の素材入荷量は428万6千 $m^3$ で、前年に比べて13万5千 $m^3$ （3.3%）増加した。これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は427万4千 $m^3$ で、前年に比べて15万3千 $m^3$ （3.7%）増加し、外材の入荷量は1万2千 $m^3$ で、前年に比べて1万8千 $m^3$ （60.0%）減少した。（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

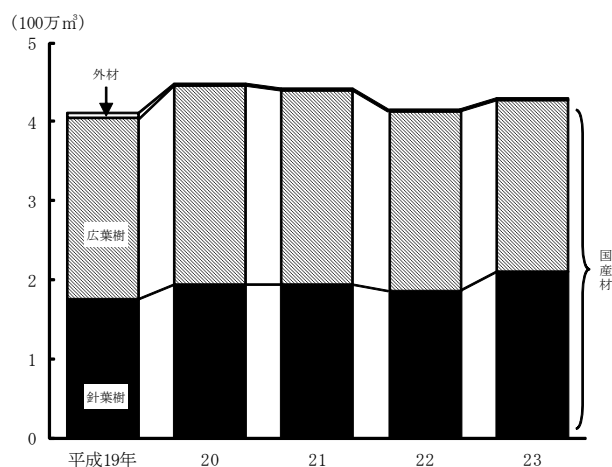


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材		米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
						ラワン材					
平成23年	4,286	4,274	2,109	2,165	12	2	2	2	8	x	x
対前年比 (%)	103.3	103.7	113.4	95.7	40.0	200.0	200.0	10.0	400.0	x	x
構成比 (%)	100.0	99.7	49.2	50.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	x	x

単位：千 $m^3$



ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成23年の木材チップ生産量は563万3千tで、前年に比べて22万6千t（4.2%）増加した。これを原材料別にみると、工場残材及び素材（原木）において、前年に比べてそれぞれ11万7千t（6.4%）、3万2千t（1.3%）減少したものの、解体材・廃材及び林地残材において、前年に比べてそれぞれ36万3千t（35.3%）、1万2千t（9.0%）増加した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は278万3千tで、前年に比べて3万t（0.1%）減少し、広葉樹は146万tで、前年に比べて13万4千t（8.4%）減少した。

（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	平成23年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,633	104.2	100.0
原材料別			
素材（原木）	2,376	98.7	42.2
工場残材	1,722	93.6	30.6
林地残材	145	109.0	2.6
解体材・廃材	1,390	135.3	24.7
針葉樹・広葉樹別			
針葉樹	2,783	99.9	-
広葉樹	1,460	91.6	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移

